

令和6年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

## 佐藤達夫「武蔵国加治丘陵植物仮目録」

佐藤達夫氏は、福岡県久留米市で明治37(1904)年に生まれました。昭和3(1928)年に東京帝国大学法学部を卒業後、内務省に入省し官僚となりました。戦後は日本国憲法の起草に携わり、法制局長官などを歴任した法制の専門家でした。昭和37(1962)年には人事院総裁をつとめ、昭和49(1974)年に亡くなるまでその職にありました。

多忙な公務の傍ら、植物研究者としても活躍し、各地で採集した植物で作成した押し葉標本が数多く遺されています。

また、エッセイやボタニカルアート(科学的研究を目的として、植物を正確かつ緻密に書いた植物画)など自然や植物に関する数多くの作品も著されました。

「武蔵国加治丘陵植物仮目録」(以下、「仮目録」)は佐藤氏の植物研究の成果のひとつとして、昭和31(1956)年に出されました。出版社等の奥付はなく私家版として作成されたものと考えられます。内容は、佐藤氏が昭和23(1948)年から昭和26(1951)年までを中心として、青梅市内の加治丘陵において採集または観察した維管束植物いかんそくしよくぶつ(種子植物及びシダ植物)の目録となっています。目録には分類・学名・ローマ字表記の和名のほか、開花や結実けっじつを観察した種類についてはその年月日を記載しています。

また、昭和48(1973)年には「武蔵国加治丘陵植物仮目録追加」として、新たな種類が多数目録に追加されています。

採集・観察した範囲は加治丘陵ですが、「はしがき」によれば「採集地域は、国電東青梅駅の北方、黒沢に至る飯能街道沿いの区域及びその東方塩舟観音までの丘陵地を中心とし、行政区画としては青梅市(もとの霞村)及び小曾木村にまたがる」とされ、現在の住所では富岡・小曾木・黒沢・根ヶ布・師岡・吹上・塩船付近の丘陵地にあたりと考えられます。

なお、後述するように、草原や湿地に生育する植物も多数含まれていることから、山林だけでなく、草原や谷あいやあいの水田、湿地、河川の植物も対象に記録したと考えられます。

「追加」も含め、「仮目録」には、673種類(未同定・未確定の種を含む)の植物が掲載されています。この中には、加治丘陵で発見された「アズマシライトソウ」も含まれています。「仮目録」に掲載された種類には現在も普通に見られる種類もありますが、ほ

とんど見られなくなった種類も数多くあります。

「仮目録」に掲載された種類から、現在は加治丘陵で少なくなった環境である草原・湿地・水域に生育する植物で、かつ現在、絶滅危惧種に指定されているものを下に挙げました。

<草原に生育する植物>

オトコヨモギ	オグルマ	ミヤコアザミ	キキョウ	マツムシソウ
オミナエシ	コガンピ	クララ	ウメバチソウ	アズマギク

<湿地に生育する植物>

ヒメシオン	オオニガナ	サワギキョウ	キクモ	サワオトギリ	
サワトンボ(ミズトンボ)		ノハナショウブ		ヒロハノコウガイゼキショウ	
ハリコウガイゼキショウ		クロイヌノヒゲ		ニッポンイヌノヒゲ	
ヒロハイヌノヒゲ		クログワイ		ヌマハリイ	イヌノハナヒゲ
コマツカサススキ		ミズオオバコ		アズマツメクサ	

<水域に生育する植物>

タヌキモ	ジュンサイ	アカザ	ヒルムシロ	ヤナギモ
ナガエミクリ				

加治丘陵は人里に近く比較的起伏がなだらかなため、アカマツ林やコナラ林といった山林やススキなどの草が生い茂る草原が広がっていました。また、谷あいには谷戸田が営まれ、水田や水路などの多様な水辺環境がありました。「仮目録」は、こうした伝統的な土地利用が行われていた昭和20年代の青梅市の自然環境を伝える貴重な資料となっています。

<参考文献>

- 青梅市郷土博物館. 2005. 青梅の名花・名木. 61pp. 青梅市郷土博物館.
- 佐藤達夫. 1956. 武蔵国加治丘陵植物仮目録. 30pp. 私家版.
- 佐藤達夫. 1973. 武蔵国加治丘陵植物仮目録追加. 9pp. 私家版.
- 佐藤達夫. 2023. 植物誌. 241pp. 河出書房新社.

(文責 御手洗望)